

刊夕日四十月六

常警日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 発行所 常警日新聞社
 印刷所 常警日新聞社
 電話 六二〇〇

人生行路難の打解と孝道の作興

麻生 正蔵 (二)

之を要するに、近代思想たる獨立、自由、平等、權利の誤解濫用の澎湃たる激流に押し流されて来た現代人は遂に我儘放縱なる利己的な個人主義に墮して了つたのである。而して近代思想の中心である育心要めの博愛、即ち幸福な人生になくて叶はぬ最大至上の人間道である仁愛の美しい、尊い人間味は忘却され、漸次に衰退し遂に枯渇して了つた観がある。其處に現代人生の三大主要方面の病弊に共通な根本源泉が横たつて居るのである。

前述の次第であつて、現代人は一に地理上の發見、科學の發達、機械の發明、産業の革命の影響として、盛に物質慾に誘惑され、享樂生活に墮すると共に、他方には獨立、自由、平等、權利の近代思想に魔せられ、放縱我儘なる利己的個人主義に陥り、此の兩方面の趨勢の激流に押し流され、此の兩傾向が合流して出来上つた大濁流を以つてその生活の指導原理とするに至つたのである。而して此の大濁流は極めて物質的な一放

縱我儘なる、排他的、利己的な個人主義である。愚考する所に據れば現代人を禍ひし、惱まして居るものは、かう言ふ有毒な個人主義である。而して之れが現代のあらゆる病弊の共通な根本原因である、と私は信じて居る。勿論それは唯一の原因ではあるまい。尙其の他幾つかの原因が存するに相違ないのである。併しそれは主なる根本原因であるとは想ふ。而して政治の腐敗も、實業の墮落も、道徳の頹廢も、思想の險惡化も、その主因はかう言ふ利己的個人主義に存するのであると、私は信じて疑はないのである。

私の絮説を待つ迄もなく、政治上に就て之を言へば近

ノート

肌着足袋 靴下類は 着物と一緒に 箱に藏ふこと 禁物 着物に汚れを移すことがある

代に及んで専制政治は改まり、立憲代議政治となり國民の獨立、自由、平等、權利の要求が政治的に認諾された形となつたのは、賀すべき政治上の一進歩と言ふべきであらうが、代議政治は政黨政治を招來し、政黨政治は政治の眞目的たる

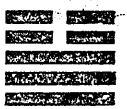
公善即ち國家善と國民善とを無視し、只管黨勢を擴張し、黨力を培養し、あらゆる惡辣な手段を採用し、政權獲得の一路を突進し、此の獲得せる政權を利用して利權獲得の峻道を猛進し、國家繁榮向上はおろか、國民の安寧福祉をも脚下に蹂

明日の献立

【朝】すまし汁―薄打ちなす
 【晝】ライスカレー―牛肉玉葱馬鈴薯カレー粉白飯
 【晚】さうりもみ―胡瓜、しら乾花かつを、三杯酢

關して顧みず、政商と相結託し、萬機を公論で決することなきは勿論、國政を私黨の私論で私益の爲に決し國政を濫用し、紊亂し、率ゐては人心を腐敗せしめ、世道を墮落せしめ、遂に愛國尊皇の士をして政黨政治亡國論、政黨政治打倒論否、その實際運動迄を惹起せしむるに至つたのは、痛嘆の至りであるが、それは抑も何がさうさせたのであるか、それは主として利己的個人主義の病毒の然らしむる所であると、私は信ずるのである。

地家百人 相事般定



平野町 高島野 所斷易島高 象定澤野

【白】古きを捨て新企の起る奔走の日和順するをよしとす
 【黒】營業繁昌好結果を示す日なれど火の元用心【三碧】要用多忙辛苦の日困して玉をなすは忍耐が肝要【四緑】病氣、怪我、紛失、移轉々校の咄しあり【五黄】吉なれど長男長女の驚事に注意【六白】縁談金談の望事は目上賢者に從ひて吉【七赤】暫く逢ぬ人が來り厄介になるか病氣怪我の心配あり【八白】縁談が調つて金談の苦勞あり營業取引に利あり【九紫】酒色の爲に家内不和か婦女子の事で争論を引起す【株】下廻り「米」上廻り

印刷物の御用命は總て
 常警日新聞印刷株式會社
 電話三六〇番

涼しい……
 麥一文字帽子
 ¥35.00
 ツルヤ
 電一四〇

夏服

シルクポリー	拾六圓五拾錢
最上仕立三ツ組	
ポリーセビロ(上下)	八圓三十錢
黒セル上衣	三圓ヨリ
グラニット	一圓五十錢
白キヤラコ	五十錢ヨリ
白セルズボン	三圓五十錢ヨリ

平町四丁目停車場通
正札堂洋服店
 (電話四三六番)

御贈答に!!!
 記念品に!!!
 諸景品に!!!
 漆器を!!!
 誠實勉強 親切第一 在庫豊富
共は
 是非御用命を
 ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウ
 ル、又リモノミセ
 平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)
 各國産漆器 専門卸小賣
共漆器店
 店員募集 十三才迄位 小 店員 三十才迄位 外 交 員

耳鼻咽喉科専門
 氣管食道科
 平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

外科 醫學博士 渡部 義夫
 小兒科 女 醫 渡部 さい子
 内科
 平町田町大通り(電話二七七番)
渡部 外科
 入院應需

張本人は知らぬ

存せぬの一點張

引續きけいふも疑獄公判

昨報小名濱築港疑獄事件の公判は昨夜八時頃迄に及んだが本日も午前十時より引續いて 開廷傍聴人は相變らず延外に迄溢れ定刻被告六名入廷先づ裁判長は久保田に對し同事件自首の動機を

木に對し
「昭和七年八月被告が病氣中に被告鈴木其他が見舞ひと稱し金百圓を持参した事があるか」
と訊した處
「左様な事實はありませぬ」
として

其他何にも犯罪の事實を頑強に知らぬ存せぬの一点張りで否認し正午一先づ休憩した

小林檢事の求刑

收 賄	樽木 篤夫	懲役一年六月
贈 賄	久保田 眞	六月
同	馬目雄次郎	三月
同	鈴木 省三	罰金百五十圓
同	長岡 義守	同上
同	高木 武士	同上

繭に夢中で 田植はどうでも

郡農會が動き出す

カラ梅雨の水不足に氣を腐らした農家では一方繭價の騰貴に夢中となり主力を養蠶のみに注ぎ水田植付はソツチ除けの様なので郡農會でも捨て、置けず盛んに田植の共同作業及び水不足の

對策として室素施肥等の獎勵を躍々起となつてやり出した
平第二の植物 平第二小學校にては兒童に對し校庭の樹木に其の名稱及び

何科の植物に屬するものであるかを表示し植物教育を行ふ事になつたと
豊岡役場助役 石城郡豊岡村では昨十三日村會を開き永らく缺員中であつた助役の選挙を行つた結果

健康相談處の取扱時間改選

は從來午前八時より午後四時迄の處來る二十日より午前九時より午後四時迄と改正する事になつたが七月二十一日より八月三十一日迄は午前八時より正午迄である

並ぶすけ笠 田植のトツプ

飯野村は明日から

石城郡各農家の田植は來る十七八日頃より廿日頃迄であるが飯野村等ではトツプを切り明十五日から行ふと

夫の行方 貧に窮した 妻の搜索願

石城郡湯本町字天王崎居住日雇業福田敏夫(三)は本年一月炭鑛を失業し妻子を殘して東京方面へ出稼に行つたが其後送金もなく家計に

明日のラジオ
十五日

今夜は南東の風驟
雨あり明日は南西
の風晴曇半す

今朝の部
後六、〇〇 子供の時間
お話「ゴドモの新聞が生れてから」村岡花子 關屋五十二 長谷耕作
後六、三五 ことばの講座
「讀本朗讀」(三) 解説神保格 尋常小學國語讀本 卷九「麥打」弟から兄へ
山野邊繁五郎氏が當選した

困つた妻のキン(三)は働かうにも足手纏ひの子供が有り最近では近處の同情で生活して居ると本日平署に夫の搜索方を願出た

好間害虫駆除 石城郡好間村果樹實行組合では

來る廿日午前十時より第一小學校に於いて委員會を開き果樹類の害虫驅除に就いて打合せ會を開くと

自分の自轉車に 轢かれて重傷

轢かれて重傷

石城郡赤井村字高萩佐々木房夫(三)君は去る十二日午後九時頃自轉車で平町より歸途同村字赤井地内を進行中ハンドルを誤つて田圃に落ち込み自轉車の下敷となつて重傷を負つた

平職業紹介所報告

回人を求める方

- △女中 十八才 高卒 月五六圓(平町某)
- △鮮魚荷造 三十迄 月十圓 委細面談(豊岡村某)
- △農夫 三十迄 委細面談(平町某)
- △豆腐賣子 三十迄 尋卒

後九、三〇 時報
氣象通報 番組預告
明日の部
前六、三〇 基礎ドイツ語講座(二八)橋本忠夫
前九、一〇 料理献立「小鯛の葉巻むし」宮腰了三郎
前一〇、三〇 家庭講座「七月朝茶の湯(終)懷石料理法」栗山善四郎
後〇、〇五 映畫物語「よ組の金五郎」三田春潮
後〇、二〇 俚諺 門司小唄 唄はじめ 三味線梅

平商遠足運動 平商

業學校にては明日新舞子に遠足運動會を催すと

木村科醫院

平町五丁目橋際 電話九〇三番

- △事務員 四十一才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △鐵工見習 十六才 高卒 給料面談(平窪村某)
- △看護婦見習 二十一才 高女卒 給料面談(平町某)

是非御利用を

営業時間午後九時迄

平町四丁目河岸通
三井質店
電話六〇六番

看護婦急派の求めに應じます

平看護婦會

平町南町 電話三〇七番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第三百六十四席 物外と近藤勇

他流試合を挑む

近藤周助は勝太をはじめそれに居る門人に向ひ

周「貴様達はよく名人と云ふことを申すが、名人なぞと云ふものは容易に出来るものではない、しかし當今

は自から名人と稱す無法者も出て来たとは云へ、まづ俺の居るところでは剣法の

名人としては八丁堀に道場を出して居る鏡心明智流の

剣術に達して居る桃井春造殿は名人であらうか、次に

番町の齊藤彌九郎、これは

剣術によつて知られたばかりでない、學者で、しかも

政治家だ、武藝者にいたして置くは惜しい、柔道には

磯又右衛門、これは當代の名人であらう、槍にては神

保祐吉、これは旗本だ、この神保は馬術にも達して居

る、弓では淺野に居る大久保勝吉、鐵砲では大島保之

進、これはうそもつくから自然と鐵砲も上手になる」

勝「左様でございますか大分お父上は名人を並べましたがこの名人の中の名人は誰でございますか」

周「さうだな、この人々を除き特別の名人がある何人と思ふ」

勝「わかりませぬな」
周「それはな小谷下總守殿である」
勝「かね／＼小谷殿の兵法に達することは承はつて居りました、これは特別の名人でございますか」



周「まづ刀を持たしては鬼神とてこれを敵として勝負を争ふことは出来まい」
勝「大層はめなますなそんな奴が世の中に居りますか」
周「これ、そんな奴とは失禮千萬、小谷殿は旗本である」
勝「旗本だとして大名だとして

そんなに尊敬するには及びませぬ、大分門人もございませうか」
周「五百人餘り門弟があるさうだ、その内で木梅縫之助と申すものが出来るさうだな」
勝「左様でございますか」と云つたが、勝太は小谷下總守だとしてそれ程の名人でもあるまい、親父は小谷に酔つてゐるからほめてゐるが、近い内に出掛けて行き、どれ程出来るかその技をためしてみようとかう思つた、これから五日ばかりたつてのこと、土方歳三、

漢學の塾生なども本をかついてほかの塾へ經書の試合に行つたもの、わたくしなぞも子供の内に先輩につれて塾を歩いたもの、學問上のことですから組打ちをするやうなことはないが議論がはげしくなるとこぶし位はとびます、漢學の塾生すら此の通り、まして武藝を學ぶものは天下の豪傑は俺であらうと云ふ自信を持つてゐる、それですから女のことなどおくびにも出さない、女の事などを口にする、にう弱な奴だと云つて竹刀で打ち据へられる粗暴ではあるが氣概はあります、現代とは大違ひ

小「劍術の試合ならばよしな方がようございませうよお弟子に強いのがをりますよ一昨日もあなたの方のやうな人が來ましたが、お弟子にひどくぶたれて腰をさすり／＼歸りました」
沖「おれはそんなに弱いものではない、下總守を打込むつもりだ」
小「馬鹿は隣の火事よりこわいや」
沖「何んだとこの小僧」
勝「これ沖田、丁稚を相手にいさかいをする奴があるか」
と制してこれから小谷の許に來た。

佐藤彦五郎、沖田總司などと相談して小谷の許に押しよせ腕前を見せ付けてくれようといふ血氣の若物打揃つて半達の道場をあとに本所龜澤町の小谷の邸に來た、これは試合をするため昔は劍術に限りませぬ、

勝「どこだ小谷の邸は」
沖「聞いてみる、ア向ふから酒屋の小僧が來た、これ／＼丁稚、小僧待て」
小「丁稚とは誰のことだ」
沖「怒るな、貴様は丁稚ではないか」
小「今は丁稚だが後には旦那はなる」
沖「面白い小僧だ、この邊に小谷と云ふ小旗下の邸があるか」
小「小旗本とはどんな邸でございますか」
沖「小身の旗下だ、知つて居るか」
小「谷と云ふ邸を小知つて居ります、今お邸のお長家から徳利を集めての歸りでございませぬ、この向ふの赤い御門のお邸が小谷様でございます、あなた、方は何んがお邸にお出でになりますか」
沖「用事があつてまゐる」

市原醫院
平町田町
電話一四番

三井タクシヤ
平町二丁目
電話八六五番

助手募集!

耳鼻咽喉専門

應入院 山内醫院
平町田町七〇番地
醫學士 山内亨吉
電話六九一

恐ろしい疫癘の流行期!!!
◎毎年六月始めより十月と申します
◎死亡率統計百人中六十五人以上として居ます
まづ豫防に經口免疫の
北里研究所製造 疫癘内服ワクチン
價格 幼兒一人分三十錢 大人一人分五十錢
(文獻進呈)

特約店 西村屋藥局
平町二丁目 電話三

平新川町十九
外産婦人科 木村病院
電話一六四番
産婦人科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學士 内木宗八
内臓外科 整形外科 器泌尿科

高久病院
院長 醫學士 佐竹菊雄
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 高久忠
平町田町 電話五一三番

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科